

S 1. 海洋深層水利活用推進による「まち・ひと・しごと」創生

中村幸雄

(久米島町プロジェクト推進室 室長)

日本最大の海洋深層水取水量を誇る沖縄県海洋深層水研究所が久米島に開所してから15年。地域の民間企業・団体への技術移転と深層水分水により、久米島の深層水利活用産業は生産額年間20億円の一大産業へと成長しています。さらに今後に向けて、民間企業は増産のための設備投資を行っています。また同研究所においては水産・農業利用研究の他、産・学・官及それぞれによるエネルギー利用、海水淡水化利用、水産・農業利用、バイオ利用など、幅広い技術開発・実証・商用化が展開されています。

このような再生可能な資源である海洋深層水を用いたエネルギー・水・食糧の供給の取り組みは、とりわけ熱帯・亜熱帯地域からの注目を集めており、ここ2年間で国内外から30ヶ国・3,000人を超える見学・視察を受けています。特にエネルギーに関しては日米政府間協定「沖縄・ハワイクリーンエネル

ギー協力」に基づき、毎年ハワイ・コナと沖縄・久米島でワークショップが開かれOTECをはじめとする海洋再生可能エネルギーの実現に向けて協力することが確認されています。

一方、課題として、増加する深層水需要に対して現在の海洋深層水取水・供給設備の容量は既に限界に達しており、これ以上の商用規模利用が不可能な状況となっています。

そこで久米島町では平成22年に海洋深層水取水・供給設備の増強による産業の伸長と地域のエネルギー自給を目指す島嶼自立型コミュニティ「久米島モデル」を計画し、その実現に向けて構想具体化や実証事業誘致を続けており、その成果を基に「久米島町海洋深層水資源利活用地方創生事業」を策定中ですが本事業実現に向けての現状と課題及び今後の展開について紹介します。



写真：海洋深層水複合利用の視察 カリブ共同体14か国1地域の皆さん